

奈良大学図書館情報学研究会（NATOKEN）のご紹介

文化財学科教授（司書課程担当） 竹 田 芳 則

2019年に発足した奈良大学図書館情報学研究会（NATOKEN）では、参加学生が一緒に取り組める活動として、本学図書館カウンター横のスペースをお借りして、2か月ごとに研究会のメンバーがアイデアを出し合ってテーマを設定し、ミニ展示を実施しています。

また、2025年の夏休み期間中には、新しい試みとして「学問の推し活」を大テーマに、「神話」「大学生のための英語」「女性と歴史」「方言」「ゲーム」の5つの主題で、好きな学問の入口になるように、図書館蔵書から選んで、ブックリストを作成し展示を行いました。

さらに年間の活動の中では、図書館蔵書以外にも、メンバーが図書館員と書店に出向いて、話

題の新刊書など、学生の興味を引くものを中心に学生選書を行い、企画展示を実施しています。

こうした図書館展示以外にも、NATOKENでは、毎月定例で令和館オープンプレゼンスペースにおいて、部外の学生にも呼びかけて「知的書評合戦ビブリオバトル in 奈良大学」を主催しているほか、外部の図書館見学ツアー、図書館司書採用試験に向けての勉強会など、参加学生の興味関心にあわせた多彩な活動を行っています。

毎週木曜日5限の16時20分からA棟の421共同研究室で活動を行っていますので、ぜひお気軽にのぞいていただけたらと思います。司書課程履修中の人以外にも、図書館や本に興味のある学生のみなさんの参加をお待ちしております。



2024年4月～2025年10月 NATOKEN 展示

2024年4－5月	なら新生活第一歩
2024年6－7月	雨降る時の風物詩～初夏の楽しみ～
2024年8月	ボン・ヴォヤージュ！ France ～空想の旅に出てみよう!!（パリ五輪など）
2024年9－10月	いにしへの奈良の都の旅の空（奈良のガイドブックなど）
2024年11－12月	2024秋冬特集～おこもり or おでかけ?～
2025年1－3月	人類子供化計画～return to children～（絵本）
2025年4－5月	新生活お得情報～大学生最初の一冊～
2025年6－7月	図書館緑日（夏の楽しみ）
2025年8－10月	学問の推し活



いにしへの奈良の都の旅の空

奈良大学図書館 企画展示のご報告 図書館所蔵データファイル「国勢調査＜地域メッシュ統計＞」

地理学科 教授 酒 井 高 正

奈良大学図書館で購入した「国勢調査＜地域メッシュ統計＞」データファイルを学内外に紹介するために、地域メッシュ統計の仕組みの説明や、統計データを地理情報システム（GIS）により可視化した地図を図書館展示室にて展示しました（会期：2025年7月11日～9月8日）。

地域メッシュ統計とは、国土を緯度・経度にもとづく小さな四角形の区画（メッシュ）に細分し、統計調査の結果をこの区画にあわせて整理したものです。近年は主な政府統計について地域メッシュ統計が整備されており、国勢調査はその代表的なものとなります。

この「国勢調査＜地域メッシュ統計＞」のデータについては、政府統計のポータルサイトである「政府統計の総合窓口 e-Stat」<https://www.e-stat.go.jp/>において無償公開され広く利用されていますが、現時点では「e-Stat」において公開

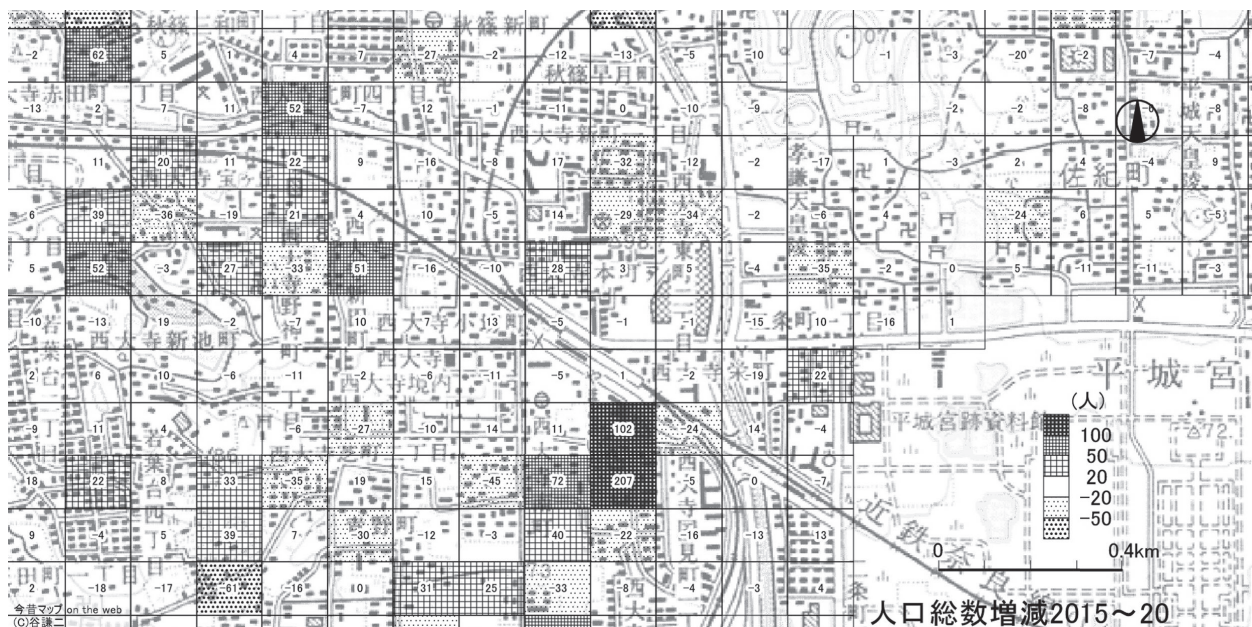
されているのは一部のデータに限定されています。奈良大学図書館では学生や教員からの要望を受け、「e-Stat」で公開されていない多くのデータを含む完全なデータファイルを、奈良や京阪神とその周辺地域の範囲について2015年および2020年の分を、公益財団法人 統計情報研究開発センター（略称：Sinfonica）より購入し、利用できるようにしました。

収録データのうち最も細分化された「6次メッシュ（8分の1メッシュ）」は、「e-Stat」では未公開ですが、区画のおよそのサイズから「125mメッシュ」とも呼ばれ、街区や大型建築物のレベルでの微細な現地状況と人口状況の関係を読み取ることのできる貴重なデータとされています。国勢調査以外のメッシュ統計データとの連携した分析も可能です。

今回の展示では、「6次メッシュ」に焦点を当

て、データファイルに収録されている統計数値や、計算により算出した統計指標をGISにより地図化したものを、地理学科学生がゼミや卒業論文での自分の研究で作成したものも含めて、図書館展示室にて展示しました（会期：2025年7月11日～9月8日）。会期中、オープンキャンパスや

「GIS Day in 奈良 2025」等のイベントが開催され図書館が一般公開された日曜には、学外からの来客にもご見学いただき、展示室内にてパソコンでのデモも含めて展示内容の解説も随時行いました。学内でのデータ利用は緒に就いたばかりですが、これを機に活用が進むことを期待します。



6次メッシュによる大和西大寺駅周辺地域の人口増減（2015年～2020年）の表示例

国勢調査＜地域メッシュ統計＞をMANDARAにて表示

（背景地図は谷謙二氏「今昔マップ」による1996年測図の2万5千分の1地形図）

※各区画内の数値は増減人数を示します。白黒印刷対応のため、展示地図とは表現を変えていますが、図中央の大和西大寺駅南側のマンションが建設された区画で大幅な人口増加が読み取れます。

【図書館パネル展示】ジブリから見る多様な価値観 —大学生の考えるジェンダー論—によせて

国文学科 教授 光 石 亜由美

この度、国文学演習Ⅰ（六）では、ゼミ発表の一環として「ジブリから見る多様な価値観—大学生の考えるジェンダー論—」と題して、ジブリの作品をとりあげながら、ジェンダー的視点を考える図書館パネル展示を行いました。

まず、ブレインストーミングで、展示のコンセプトを出し合い、全体テーマを〈ジブリとジェンダー〉に決定しました。次に、学生さん一人一人が研究してみたいジブリ作品を選択し、解説文を書きました。ジブリのアニメを、ジェンダーという観点から見直したら、どのような発見があるのか、ということに注目して研究しました。パネルの字数は限られていますので、少ない字数で見てくれる人に伝わる言葉を選び、デザインも工夫しました。そして、このパネルを見て、ジブリ作品

を見たことのない人は見てみたくなるような、また、見たことのある人は、再度、見たくなるような解説文の作成を心掛けました。

パネル作成とともに、企画

Ghibli &

展示期間
2025年
7月3日（木）～
8月30日（土）

場所
奈良大学図書館（仁王像前）

ジブリから見る多様な価値観

～大学生の考えるジェンダー論～

主催
奈良大学文学部国文学科
国文学演習(6)ゼミ
ゼミ生（19名）

gender

班、ポスター班、広報班、資料班に分かれ、展示作業を進めました。

以下、学生さんが作成した展示の挨拶文の一部です。

ジェンダー論というものは触れれば触れるほどに、これが意外と身の回りに溢れていることに気が付くものであるのです。ジブリ作品といえば、宮崎駿監督が生み出す多くのキャラクターたちが、その独特の世界で様々な冒険を繰り広げていますね。その過程で、作品ごとのその世界その時代に、彼らキャラクターたちが織りなす多様な人間関係、多様な役目、多様な立ち回りというのが、これまた「ジェンダー論」というテーマを扱う上で非常にぴったりの構成となっているのです。

今回この展示を行うにあたって、年齢20～21の私たちの企画制作は当然ながら一筋縄で行くものではありませんでした。ジェンダー論を扱うにあたって何を題材にするのか、期間はいつからいつまでか、誰がどんな役目を持てはたらくのか。なかなか擦り合わない意見、決まらないポスター、埋まらない企画案。そんな私たちは一体どのような展示に漕ぎつけたのか、そのありようまで展示の一部として楽しんでいただければと思います。

学生一人一人が、ジブリ作品を多様な視点から解釈し、見る人に伝わる言葉を考えました。展示を見ていただいたみなさまにも、ゼミ生の想いが伝わったのではないかと思います。

図書館統計 <2025年3月末の集計>

	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	増 減
開館日数	282	282	0
入館者数	67,476	63,618	▲ 3,858
図書所蔵数	654,885	662,629	7,744
雑誌タイトル数	6,955	6,969	14
貸出総数	34,092	32,354	▲ 1,738
内 学生※	28,528	26,630	▲ 1,898
相互協力利用（依頼）	213	229	16
相互協力利用（受付）	675	671	▲ 4

※通信教育部生を含む。

日本図書館協会の調査による昨年度（令和6年度）の統計を掲載しています。

後 記

「みささぎ」37号をお届けいたします。まずは原稿をいただきました竹田先生、酒井先生、光石先生にお礼を申し上げます、ありがとうございました。

紹介させていただいた奈良大学図書館情報学研究会のみなさまには、カウンター横に常設で展示をしていただいておりますので、来館の折はご覧いただければと思います。また、酒井先生には数値データの地図上への立体的な展開、光石先生のゼミ生のみなさまからはジブリ作品からの多様な視点からの解釈、など、多様な展示をおこなっていただきました、図書資料の可能性がひろがります。

次号は来年3月頃の発行を予定しております、お楽しみに。（編集担当）

発行：令和7年10月10日
編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500